

平成23年度（22年度対象）

# 教育委員会の点検・評価

平成23年9月

土佐清水市教育委員会

## 土佐清水市教育委員会の活動について

日本人初の留学生といわれる「ジョン万次郎こと中浜万次郎」は、アメリカにおいて語学や航海術等を学び、日本を開国と文明開化に導きました。

その「ジョン万次郎」の故郷土佐清水市の教育委員会では、基礎学力の定着や子どもから成人・高齢者まで「生涯、学ぶことのできる機会の確保・充実」を重点目標としております。

主な施策としては、西日本でもトップクラスといわれる充実した奨学資金制度、また、各界の第一人者を講師とした夏季大学講座や人権教育推進講座等の開催をはじめ、家庭や地域の教育力の向上、子どもの安全を確保し、安心して過ごせる環境づくり、生涯スポーツ・文化芸術の振興、子どもの読書及び図書館活動などの推進に努めてまいりました。

特に、「教育環境日本一」の2年目となる22年度においては、前年度からの継続事業となる小学校への中学校数学教員の配置と併せて特別支援教育支援員の増員やALTを活用しての外国語・外国文化の理解を図ってまいりました。

また、「高知県地域アクションプラン」を導入し、体育・数学などの教員免許を持った非常勤講師を雇用して学力向上策等を図ると共に「放課後子ども教室」の全校への拡充活動や夏休みを利用した「わくわく科学体験教室」の実施など、学校を側面から支援する各種事業も積極的に取り組んでまいりました。

ハード事業としては、昨年度、全小学校職員室や保健室等へのエアコン設置に引続き、全中学校へ設置すると共に老朽化が進む清水中学校の平成25年度移転改築に向け、校舎等の設計などを行ってまいりました。

このように教育委員会が平成22年度に取り組んだ活動などを、「教育委員会活動の自己点検・評価」として報告書にまとめました。

市民の皆様におかれましては、報告書をご覧の上、ご意見・ご要望等をお寄せいただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

平成23年9月

土佐清水市教育委員会

# 平成22年度 土佐清水市教育委員会 評価シート

## 1. 自己点検・評価

大項目	中項目	小項目	成果 及び 評価	
1 教育委員会の活動	(1) 教育委員会の会議	① 開催状況	定例会を会議規則で定めたとおり毎月1回開催した。	4
		② 運営上の工夫	議案・資料を事前に配布し、情報交換を行った。	4
	(2) 教育委員会と事務局との連携		適宜、情報・意見交換を行っている。	4
	(3) 教育委員の自己研鑽		幡多市町村教育委員会連合会の研修会に2回、県市町村教育委員会連合会主催の研修会に3回、市主催の視察研修会に1回、参加し自己研鑽に努めた。	3
	(4) 支援・条件整備	① 学校訪問・支援	小学校6校、中学校3校を訪問し学校の課題や取組について意見交換を行った。また、学校行事等にも積極的に参加した。	4
② 所管施設訪問・支援		各委員が必要に応じて所管施設等の訪問や支援を行った。	3	
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1) 教育行政の基本的な方針に関すること。		活力と豊で生きがいのある郷土づくりを実現するため「ふるさとを愛し、たくましく、心豊かな人づくり」を基本として教育行政方針を定め教育施策を推進した。	3
	(2) 教育委員会規則等の制定または改廃に関すること。		土佐清水市社会体育施設の施設及び管理に関する条例の一部改正等、条例3件、規則1件、要綱1件を審議した。	3
	(3) 学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。		松尾小学校・立石小学校廃校手続き	3
	(4) 職員の任免その他の人事に関すること。		各機関において適切な配置がなされた。	3
	(5) 教育予算等の議会の議決を経るべき事件の議案について意見の申し出に関すること。		教育委員会事務局各課の予算について説明を受け協議をおこなった。	3
3 管理・執行を教育長に委任する事務	(1) 学校教育に関すること。	① 学校教育の充実	・特別支援教育支援員を小学校に7名中学校に3名配置し学校の支援を行った。 ・小中連携・中1ギャップ解消のため清水小学校に清水中学校の教諭を配置し教科指導・児童生徒指導等の有効な方策を探る。	3
		② 教育内容の充実	・外国語指導助手(2名)を配置し、小中学生に対して、国際理解と生きた外国語教育等を推進した。 ・全小中学校児童生徒を対象に、基礎学力の定着度を把握し、的確な支援が行えるよう到達度把握事業等を実施した。	3
		③ 教育条件(環境)の整備	・全中学校の職員室・保健室・校長室等にエアコンを設置。 ・三崎中学校、足摺小学校校庭整備を実施。 ・足摺小学校プール塗装工事を実施。 ・老朽化による雨漏りの修繕。 ・中浜小学校体育館付近法面及びフェンス取替工事の実施。 ・清水小学校学童保育所前法面崩落防止工事の実施。 ・老朽化の校舎のペランダ軒下からコンクリート落下の恐れのある学校について対処した。 ・下ノ加江中学校、下川口中学校特別支援学級生徒対応のため、トイレ階段教室等について、環境整備を実施。	4
	(2) 生涯学習に関すること。	① 文化、芸術活動の充実	・第50回土佐清水市美術展覧会(11/2日～11/17日)入場者数1,573名、土佐清水市文化協会交流事業で文化祭を実施した。(10/23・24日)入場者数928名。	3
		② 社会体育施設の管理と運営	・指定管理者制度により、NPO法人スポーツクラブ「スクラム」へ社会体育施設の管理と運営を管理代行委託し生涯スポーツの振興を推進した。 ・指定管理者制度により、社会教育施設の市民文化会館は土佐清水商工会議所へ、市民図書館はNPO法人・結の会へ、管理運営の代行を委託し、活動を推進した。 ・新たに設置された総合公園テニスコートの照明設備が従来の2面1式から1面1式で使用できることから、照明施設使用料の整合性を図るため、1面単位での金額に変更する改正	3
		③ 子育て支援(学童保育)	・放課後児童健全育成事業(学童保育)開設日数:283日児童数:48名、延利用児童数10,657名	4
		④ 子育て支援(放課後子ども教室)	・放課後子ども教室推進事業:放課後等に子ども達の安全で健やかな居場所づくりを推進した。 ・のびのびスポーツ教室(市民体育館):521名 ・わくわく文化教室(市民図書館):550名 ・いきいき体験教室(中央公民館):4,200名 ・放課後子ども教室(小学校4・中学校4)22,367名 合計 27,638名	3
	(3) 中央公民館に関すること。	① 夏季大学講座	・「心豊かな人づくり」「うるおいのあるまちづくり」を基本としながら、生涯学習の柱となるべく45回夏季大学講座を開催した。 (7/22、26、8/2)入場者数 1,138名	3
		② こどもチャレンジ講座	・少年期における郷土愛・自主性・活動性の伸長を願い、併せて学校週5日制の有効な活用を図った。受講生19名・11講座開催(延 174名)	4
		③ 市民教室	・市民の文化的意欲の高まりに対する一般教養、現代的課題など様々な分野の講座を開催した。23回開催、受講者 431名	3
		④ 中央公民館教養講座	・食育、美術、伝承芸能、生物学など幅広い分野での専門性豊かな教養講座を実施した。4講座開催、受講者 497名	3
		⑤ 公民館サークル文化展	・公民館サークルの活動状況や作品を展示し、サークル会員の意識の向上を図るとともに、市民の生涯学習への意欲を盛りおこすため文化展3日間、発表会を実施した。文化展(2/25・26・27)出展サークル12団体108名 出展数 270点 入場者数 291名、サークル発表会(2/19)、発表サークル12団体、入場者170名	3
	(4) 教育センター	① 補導センター	・学校・警察・地域、関係団体と連携を取りながら巡回活動等に重点を置き、早期・夜間補導を定期的に行った。 ・スクールガードリーダー2名を配置し、市内小学校を中心に登下校時の見回り活動等を実施。 ・巡回回数:234回・従事者数:449人・補導件数:2件(3人)	3
		② 教育研究所	・研究協力校、研究員を委嘱し調査研究を行った。 ・社会科副読本「土佐清水市のくらし」第7改訂版発行。 ・情報教育の推進、ホームページの充実、パソコン講座、ITC機器活用講座の実施。 ・教育相談活動。(相談件数:2件・家庭訪問数:86件・学校訪問230件) ・小学校外国語活動研修会(12名) ますなろネットワークの構築、教育支援コーディネーターの育成(不登校未然防止等研修会)	3
		③ 適応指導教室	・「心の居場所」として、自主性や社会性を育成する。 ・個々への適応指導を計画的に行い、学力への不安解消を図る。 ・学校や保護者と連携し、自立や学校復帰に向けた援助を行った。 ・22年度通室生:4名(内高校進学1、学校復帰1) 家庭訪問:2名	4

### 4段階評価の目安

- 4・・・目標を十分達成している
- 3・・・目標をほぼ達成している
- 2・・・目標に対しやや不十分
- 1・・・改善を要する

## 2. 自己点検評価に対する意見

本年度は、「教育環境日本一」第2年度として取り組まれ、郷土の偉人中浜万次郎の精神に学び、基礎学力の定着や、子供から成人・高齢者まで「生涯学ぶことの出来る機会の確保・充実」を重点として取り組んでいる。

ソフト面では、引き続き国・県の制度を積極的に活用し、義務教育の環境整備に取り組み、学力の向上をはかるなどの充実に努めている。

ハード事業面では、去年の全小学校設置に引き続き、全中学校へのエアコンを設置するなど、設備等の充実をはかるとともに、特に、財務環境の厳しい状況が続く中、清水中学校の移転改築に向けた諸準備を行うなど、今後のスムーズな展開に向けた取り組みを今後も期待する。

また、生涯学習では、市民の学習の機会提供に向けた取り組みがなされている。

特に、適応指導教室の通室者の半数を、学習の場に復帰させた取り組みと、その関係者の努力に敬意を表したい。

自己点検評価は、目安である「目標をほぼ達成されている」から、目標を十分達成している」に増加しているが、さらなる評価が前進できるよう、施策の展開と取り組みの向上に期待します。

平成23年8月19日

評価者 土佐清水市代表監査委員 富田無事生